

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう！

「公労委認可」に焦る動労「本部」

こうした動労「本部」暴力集団のデタラメな組織指導に対して怒りを持った多くの組合員から「動労千葉ガンバレ」と数多くの激励文書が送られ、そして「オルグ」にきた組合員から声が湧きあがっています。

当初、「動労千葉は絶対に認知されない」とデマオルグをしていたのは「本部」暴力集団ではなかったでしょうか。そして労働省の出先機関たる公労委が、階級的・戦闘的労働運動を目指す動労千葉を認めたくないという、政府・権力の露骨な意図と相通じて「認可」の妨害を企及したのが、誰あろう「本部」暴力集団であったのです。この権力と野合してでも動労千葉を破壊するという反階級的行為を何んら恥ない「本部」暴力集団の路線を一刻も早く動労から追放しなければなりません。

「絶対認可されるはずのない動労千葉が認可された」事実を直視し、あわてふためく「本部」暴力集団は、今度は動労千葉は分裂主義者の本性を表わしたとワメキ散らしています。上からの分裂といえる本年三月二〇日執行権停止、三月三〇日、統制処分発動、千葉地本解体攻撃をおこなながら、臨時全国大会の開催も再登録もできずに規約・規則・組織運営のルールを無視して千葉地本一四〇〇組合員を無権利状態に放置し、「本部」に従わない千葉の組合員は首を切れ」と当局に哀願するという組織破壊、分裂行為をしておきながらよくもヌケヌケといえたものです。動労「本部」暴力集団は、公労委問題に関して、四〇五月頃「公労委は絶対認可しない」とデマビラを書きたて、今日この主張が一八〇度逆転している事実を動労組合員に説明すべきではないでしょうか。

「再建」にうつ手もなく 裁判闘争に逃げこむ



路線論争も放棄した「本部」暴力集団

動労千葉一四〇〇名組合員の団結はより強固に、闘いは着実に前進しています。なによりもその証左の第一は、六月一五日、動労千葉の「公労委認知」という冷徹な事実であります。その第二は、最近の動労「本部」暴力集団による「組織破壊オルグ」動員の激減であります。第三に、デマとペテンを用いた暴力破壊「オルグ」が結局、その成果も意義もなかったことを自己暴露するともに、路線論争もできなかった「本部」暴力集団の階級性のなさが「動労車新聞号外」(その20)の内容に示された事実であります。

四月以来の労働組合運動を逸脱した暴力破壊「オルグ」も破産し、「成果主義におちいらない」千葉オルグなどといいつつ、他方職場では成果は着々とあがっている等とき、弁を用いてなんとか組織のタガハメをしようと汲々としているのが動労「本部」暴力集団の現状であります。動労「本部」暴力集団がいう「団結署名をした者からは各個人に対して『組合費取り立て』の裁判を起し、裁判費用なども各個人に負担させる」とか、「動労千葉事務所(動力車会館)を裁判で取り返す」などと、追い詰められ展望のない実態を自己暴露しています。動労「本部」暴力集団は、裁判に訴えたと脅せば、動労千葉組合員が屈服すると考えたのでしょうか。

この発想の中にこそ「本部」暴力集団の本性をみてとることができます。裁判所は権力に訴えてでも、動労千葉破壊を策すという、権力に癒着しおもねた思想があると言わなければなりません。もちろん動労千葉は、これをも受けて立つ決意であり、勝利する確信に燃えています。動労「本部」暴力集団は、むしろ増々、日本労働運動の中で物笑いの種になるであります。全国の心ある組合員のみなさん。かくして「本部」暴力集団の選ぶ道は、より動労を変質させ、権力・当局と協調し手兵と化す道なのです。動労千葉とともに動労を真の労働組合として確立させる為、ともにがんばりましょう。

日刊 動労千葉

79.6.24
No.全国版19

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
鉄電二二五八・九・公衆電話(22)七二〇七

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！